

授業科目名： 人間学概論Ⅱ (文学と人間)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安藤公美 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 1. 文学講読・研究を実践し、研究の視点や方法論を理解、獲得できる。 2. 時代精神と人間心理の関係について把握し、自己と他者の関係を多角的に理解できる。 3. 文学フィールドワークの実践を通し、地域と文化事象を結びつけ、考える方法を知る。			
授業の概要 文学は、様々な事象を言語化したテキストだが、なかでも人間の発する声なき声や、社会が生んだ答えなき難問をすくいとるのに優れている。表現の巧みさを感じるとともに、それを生み育んだ時代精神や人間心理を知る、格好のテキストといえる。本講座では、芥川龍之介の小説や童話を軸に、自己と他者、子どもと家族・教育、生き難い時代のユートピア創出、社会的存在としての人間という観点から読み進める。講読を通し、文学表現や創作技法、児童文学と小説の享受の差など、言葉や他者とともにある人間研究として理解を深める。 文学研究の方法も現代では多様化している。芸術論、人間論、心理学、教育学、時代や国際的視点からの考察に加え、環境に即したエコクリティシズムや、〈ケア〉をキーワードとする他者との関係性、地域社会と文化的事象の共有化なども必須の観点となっている。方法論の構築とあわせて自らのテーマに即した読みの実践を行うことを通し、社会と人間と文学の関係に新たな価値創造を可能とする視点を獲得していく。 また、文学と土地のもつ文化性を結ぶ実践的体験として文学散歩（文学のフィールドワーク・鎌倉）を予定している。			
授業計画 第1回：ガイダンス 文学と心理・子ども・教育・ケア・環境 第2回：作品講読1 童話「蜘蛛の糸」解釈と討議 第3回：人間性のアポリア 生命の優先性をめぐる他者と自己の関係 第4回：世界に遍在する物語 お伽噺・民話・宗教説話・児童文学 第5回：作品講読2 「杜子春」と「杜子春伝」 解釈と討議 第6回：教育の現場 学校・物語・他者・経験 どこに学ぶか 第7回：生き難い時代を生きる 子どもの居場所 文学者によるユートピア創出 第8回：作品講読3 「藪の中」解釈と討議 第9回：ミステリか不条理文学か ポスト・トゥルースを解く			

第10回：1920年代と現代 死・恋愛・真相をめぐるメディアと文学

第11回：映画《羅生門》（黒澤明監督）文化のリヴァイタル 白黒・演技・結末

第12回：文学フィールドワークの準備1 文学と都市・トポス・観光

第13回：文学フィールドワークの準備2 作家の生きた場所

第14回：文学フィールドワーク 鎌倉 ※場所を変更する場合がある

第15回：まとめ・〈文学〉と〈人間〉の輪郭を拓げる思考

定期試験は実施しない。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

小川洋子『物語の役割』ちくまプリマー新書、2007

渡部泰明ほか『国語をめぐる冒険』岩波書店、2021

小谷一明『文学から環境を考える エコクリティシズムガイドブック』勉誠出版、2014

安藤公美『芥川龍之介 絵画 開化 映画 都市』翰林書房、2006

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』、2017

文部科学省『幼稚園教育要領（平成29年告示）』、2017

学生に対する評価

講読や討議への積極性等の参加意欲と課題レポートを総合して判断、評価する。

授業科目名： 人間学概論Ⅲ (政治と人間)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤森智子・國見真理子
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1．国家に関わる社会科学的方法を理解する。			
2．国家と人間形成の諸相を明らかにする。			
3．国家に関わる多様な問題分析の方法を確立する。			
授業の概要			
社会は個々の人間から形成され、社会科学の一つである政治学は広く人間の営みを扱うといえよう。本来、政治とは利害の調整の過程であるといわれる。本講座は、国家や社会の統治や政策が人間形成に与える影響の検討を主な目的とする。初回講義は、担当者が共同で政治の観点を中心に、国家と人間に関わる関係を概観する。藤森担当の講義では、マクロな視点では国家の統治・政策を取り上げ検討する。ミクロな視点では個々の政策と人間形成を取り上げ、ケース・スタディを行う。國見担当の講義では、子どもから大人まで幅広い社会の構成員の視点から、国家と人間との関わりについて、経済・法律面を中心に事例検討を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス/研究課題の設定(藤森・國見)			
第2回：近代社会と人間(藤森)			
第3回：国家権力と人間(藤森)			
第4回：民主主義と人間(藤森)			
第5回：国家とナショナリズム(藤森)			
第6回：言語政策と人間①：近代日本を例に(藤森)			
第7回：言語政策と人間②：日本の植民地教育を例に(藤森)			
第8回：受講生の発表と討論(藤森)			
第9回：統治と人間（國見）			
第10回：国家権力を巡る諸問題①：行政国家現象（國見）			
第11回：国家権力を巡る諸問題②：財政問題（國見）			
第12回：国家権力を巡る諸問題③：国民の司法参加と裁判員制度（國見）			
第13回：事例検討①：統治を巡る判例検討（國見）			
第14回：事例検討②：人間を巡る判例検討（國見）			
第15回：総括（國見）			

定期試験は実施しない。
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 佐藤幸治「日本国憲法論」（成文堂） 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」、2017 文部科学省「幼稚園教育要領（平成29年告示）」、2017
学生に対する評価 授業内の発表・討論(50%)及び期末課題(50%)で評価する。

授業科目名： 人間学概論Ⅳ (芸術と人間)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安村清美、三政洋一
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
生涯を通じた人間の芸術活動について舞踊、美術解剖学を中心に理解を深めることをテーマとし、次の到達目標を設定する。			
1. 舞踊について			
① 乳幼児期から学齢期を通し、人間の生涯にかかわる現象としての舞踊文化を理解する。			
② 演じられた人間像としての芸術舞踊について理解する。			
③ 舞踊芸術の表現と伝達性の関係性について、歴史と地域の中で生成され選択されてきた意味について考察する。			
2. 美術解剖学について			
① 古代から現代まで続く人間の表現の一つとして人の姿・形を表す行為がある。人体の基本的な構造を基に、人体造形におけるconstruction(構築・構成)について理解する。			
② 美術解剖学を通した人体造形の解釈から、並べる・積む・組むなどの人の表しにおける根源的な行為について理解を深める。			
③ 近・現代における様々な造形芸術を観ていくことで人間の為す形について考察する。			
授業の概要			
本講義は、人間の芸術活動がいかに関「人間」を人間たらしめてきたか（いるか）について、乳幼児期から学齢期を通し高齢期まで、人間の生涯にかかわる現象として捉え、歴史的、実践的な観点から探究することを目的とする。特に、人間存在そのものである身体を対象とする舞踊学および美術解剖学領域の研究を通して、時空間における芸術の表現と伝達の関係性を考察し「人間の芸術性」及び「芸術の人間性」について検討していく。			
授業計画			
第1回：人間の生涯に関わり人間存在そのものである身体を対象とする舞踊学の研究概観（安村）			
第2回：舞踊文化の概観―歴史と地域の中で生成され伝承されてきた舞踊（安村）			
第3回：伝承文化としての舞踊の比較検討（安村）			
第4回：芸術としての舞踊―演じられ語られた人間像①バレエ及びバレエ以降（安村）			
第5回：芸術としての舞踊―演じられ語られた人間像②現代（安村）			
第6回：芸術としての舞踊―演じられ語られた人間像③生き続ける民俗舞踊（安村）			
第7回：舞踊芸術の表現と伝達の関係性―身体と舞踊の今日的課題（安村）			

第8回：美術解剖学概観—人間による人体造形の追求について考える(三政)
 第9回：造形芸術に見る人体の法則—プロポーション、バランス、リズム(三政)
 第10回：頭部の解剖学的な構造及び造形芸術における様々な表現①(三政)
 第11回：胴体の解剖学的な構造及び造形芸術における様々な表現②(三政)
 第12回：上肢の解剖学的な構造及び造形芸術における様々な表現③(三政)
 第13回：下肢の解剖学的な構造及び造形芸術における様々な表現④(三政)
 第14回：近・現代における造形芸術としての人間像(三政)
 第15回：舞踊および造形芸術と人間について（まとめ）（安村、三政）
 定期試験は実施しない。

テキスト

必要に応じて授業内で紹介する

参考書・参考資料等

「考える身体」三浦雅士、1999、NTT出版、
 「ブリッジマンのライフドローイング」著者：GEORGE B.BRIDGMAN、翻訳・監修：神戸峰男、加藤多美子、三政洋一、2015、一般社団法人 NAUS、コーホー株式会社
 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」文部科学省、2017
 「幼稚園教育要領（平成29年告示）」文部科学省、2017

学生に対する評価

レポート(50%)および発表(50%)に基づいて総合的に判断する。

授業科目名： 人間学概論Ⅴ (自然と人間)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仙田考
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本講義を通し、自然と人間の深い関わりについて学び、自然が人間形成に与える様々な影響について理解し、また学外授業等を通して、「自然」と「人間」との関係を過去と現在までを鳥瞰し、今後の関係を討議、考察、探求できることを目標とする。			
授業の概要 本講義では、「自然」と「人間」の両者に関連させながら、「自然と人間の関わり」及び「自然体験」をテーマにして、理論と実践の両側面から考察する。 自然がなぜ人間（子どもから大人、高齢者まで）にとって必要な存在であるのか、自然とのふれあい体験、生活環境、栽培、食環境、癒し、アート、まち、気候変動等の視点から、理論と実践を通して考察する。また地球温暖化の抑制、持続可能な社会づくりに向けて、私たちになにができるのか、SDGs、ESD、生物多様性・地域生態系保全、自然と人間の共生等の視点も含め、自然と人間の関わりについて探っていく。学外授業においては、自然環境、関連施設等への訪問を通して、自然の中で仲間とともに自然を感じ、自然と里山、自然と人間との関係について考察する。			
授業計画 第1回：「自然」はなぜ人間にとって必要か 第2回：子どもと自然 第3回：生活環境と自然 第4回：食環境と自然 第5回：栽培と自然 第6回：自然のもつ癒しの力 第7回：自然とあそび、アート 第8回：SDGsと自然 第9回：まちと自然 第10回：気候変動と生活、環境 第11回：野外活動における心得、準備 第12回：自然環境、関連施設等の実際（１）－ 自然の中で自然を体感する 第13回：自然環境、関連施設等の実際（２）－ 自然の中での自然のつながりについて学ぶ			

第14回：自然環境、関連施設等の実際（３）－ 自然の中での人間の営み、関わりを理解する
第15回：まとめ及び今後の自然と人間の課題を考える
定期試験は実施しない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

文部科学省（2017）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説

文部科学省（2017）幼稚園教育要領（平成29年告示）

そのほか必要に応じて授業内で資料等を紹介する。

学生に対する評価

授業での発表・課題及び最終レポートを総合的に判断し評価する。

授業科目名： 子どもと英語特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 寺井敦子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校における英語教育の実践者として必要な基本的な知識と指導技術を身に付ける。			
授業の概要 英語教育の概要について、前半は理論、歴史、指導・評価法の概説を中心に検討し、後半は授業映像の視聴や担当教員による実践、受講生によるプレゼンテーションや模擬授業を通して検討する。また、講義中心の回も課題や実践、意見交換の時間を設ける場合がある。			
授業計画 第1回：世界の英語 第2回：第一言語と第二言語、第二言語習得と年齢 第3回：教え方のアプローチ　－　歴史、種類 第4回：インプットとアウトプット、児童とのやりとり 第5回：歌や詩、絵本の活用（ICTの活用、教室の活用、ティーム・ティーチング） 第6回：教科書の活用（ICTの活用、教室の活用、ティーム・ティーチング） 第7回：読む活動と書く活動 第8回：評価の方法 第9回：授業映像の視聴と意見交換 第10回：日本の小学校の英語教育について（変遷、中・高との連携と小学校の役割、主教材、児童や学校の多様性、国語等の他教科との連携）　－　受講生によるプレゼンテーション 第11回：学習指導案の作り方 第12回：担当教員による指導法の実演と意見交換 第13回：学生による模擬授業と意見交換 第14回：学生による模擬授業と意見交換 第15回：模擬授業の振り返り、再計画への導き 定期試験は実施しない。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語活動・外国語編			

必要に応じて資料等を紹介する。

学生に対する評価

授業での発表・課題及び模擬授業（指導案含む）を総合的に判断し評価する。

授業科目名： 教育的ケアリング特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉國陽一
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
・ ケアリングの概念とケアリングを取り巻く現代の社会的コンテクストが理解できる。			
・ ケアリングという行為の意味とそれを構成する要素について理解できる。			
・ マーティンの3C（Care=ケア、Concern=関心、Connection=つながり）に基礎を置くスクールホームの構想について理解できる。			
・ ノディングズの幸せを目的とする教育の含意と意義を理解できる。			
・ 以上の理論的視点を幼児教育・初等教育において応用する視点をもつことができる。			
授業の概要			
本授業では幼児教育・初等教育をより人間的な営みとして再解釈し、編み直す上でケアリングの理論がもつ可能性について理解を深めることを目指す。第2～4回はミルトン・メイヤロフの『ケアの本質』を購読し、ケアリングの基本的な特徴について議論する。第5回から11回はジェーン・ローランド・マーティンの『スクールホーム―〈ケア〉する学校』を講読、ケアリングを含む3C（Care=ケア、Concern=関心、Connection=つながり）の観点から幼児教育・初等教育のあり方について議論する。第12回～15回はネル・ノディングズの『幸せのための教育』を講読し、ケアリングの視点を踏まえて幼児教育・初等教育の目的について議論する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション ケアリングと幼児教育・初等教育			
第2回：文献購読① 『ケアの本質―生きることの意味』 - 他者の成長を助けることとしてのケア -			
第3回：文献購読② 『ケアの本質―生きることの意味』 - ケアの特質 -			
第4回：文献購読③ 『ケアの本質―生きることの意味』 - ケアは生に何をもたらすか -			
第5回：文献購読④ 『スクールホーム―〈ケア〉する学校』 - 私的領域と公的領域 -			
第6回：文献購読⑤ 『スクールホーム―〈ケア〉する学校』 - 学校と家庭 -			
第7回：文献購読⑥ 『スクールホーム―〈ケア〉する学校』 - 文化とカリキュラム -			
第8回：文献購読⑦ 『スクールホーム―〈ケア〉する学校』 - 3Cと中庸の徳 -			
第9回：文献購読⑧ 『スクールホーム―〈ケア〉する学校』 - 抑圧された家庭的事柄 -			
第10回：文献購読⑨ 『スクールホーム―〈ケア〉する学校』 - 家庭と世界 -			
第11回：文献購読⑩ 『スクールホーム―〈ケア〉する学校』 - 3Cと幼児教育・初等教育 -			
第12回：文献購読⑪ 『幸せのための教育』 - 幸せとは何か？ -			

第13回：文献購読⑫ 『幸せのための教育』 - 苦しみと不幸せ -

第14回：文献購読⑬ 『幸せのための教育』 - ニーズと欲求 -

第15回：文献購読⑭ 『幸せのための教育』 - 幼児教育・初等教育の目的を問う -

定期試験は実施しない。

テキスト

ジェーン・R・マーティン 生田久美子監訳 『スクールホーム—＜ケア＞する学校』 東京大学出版会、2007年

ネル・ノディングス 山崎洋子監訳 『幸せのための教育』 知泉書館、2008年

ミルトン・メイヤロフ 田村真・向野宣之訳 『ケアの本質—生きることの意味』 ゆみる出版、1987年

参考書・参考資料等

デヴィッド・グレーバー 酒井隆史他訳 『ブルシット・ジョブ クソどうでもいい仕事の理論』 岩波書店 2020年

広井良典 『ケア学 越境するケアへ』 医学書院 2000年

ジョアン・C・トロント 岡野八代訳・著 『ケアするのは誰か？ 新しい民主主義のかたちへ』 白澤社 2020年

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年

文部科学省 『小学校学習指導要領』 東洋館出版社 2018年

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総則編』 東洋館出版社 2018年

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）解説』

ネル・ノディングス 佐藤学他訳 『ケアリング 倫理と道德の教育—女性の観点から』 晃洋書房、1997年

ネル・ノディングス 佐藤学他訳 『学校におけるケアの挑戦—もう一つの教育を求めて』 ゆみる出版、2007年

徳永哲也 『正義とケアの現代哲学』 晃洋書房 2021年

学生に対する評価

文献購読時に作成するレジュメ及びディスカッションへの参加(80%)と最終レポート(20%)

授業科目名： 学び学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生田 久美子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 本講義を通して、以下の3点を目標とする。 1・「学ぶ」ということと「知る」ということの違いを理解する。 2・「学び観」を構成している「能力」「知識」「上達」「育つ」「ひらめく」という概念を理解し、「学び」と「教育」との関係を理解する。 3・教育学的観点からの「学び論」を自らが生成・吟味し成果を発表する。			
授業の概要 教育という活動は、「教える者」「教えられる(学ぶ)者」そして「教える(学ぶ)内容」の三つの要素から成立する実践的活動である。「学ぶ」ということ、「知る」ということ、また「理解する」ということは同義であるか？違いがあるとするならば、それらはどのような関係にあるのか？本講義では、哲学、認知科学(心理学を含む)の学問領域における「学び論」の系譜を辿りながら、新しく生まれ変わり、発展してきている教育学の一領域としての「学び論」に焦点をあてて考察する。最終的に、教育学的観点から発展させた「学び論」を提示する。			
授業計画 第1回：「学び」と「情報の獲得」との違い 第2回：「学び」と「知る」や「知識」との違いへの注目 第3回：『私たちはどう学んでいるのか』を通して6つのテーマについて考えることの意味 第4回：「能力」とは何か(1) 第5回：「能力」とは何か(2) 第6回：「知識」とは何か(1) 第7回：「知識」とは何か(2) 第8回：「上達」とは何か(1) 第9回：「上達」とは何か(2) 第10回：「育つ」とは何か(1) 第11回：「育つ」とは何か(2) 第12回：「ひらめく」とは何か(1) 第13回：「ひらめく」とは何か(2) 第14回：「教育」とは何か			

第15回：まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

鈴木宏昭著『私たちはどう学んでいるのか』筑摩書房2022

参考書・参考資料等

J. レイヴ&E. ウェンガー著佐伯 胖訳『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—』

産業図書、1993年

文部科学省『幼稚園教育要領（H29年告示）解説』『【総則編】小学校学習指導要領（H29年告示）解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）解説』

学生に対する評価

講義の区切れ目で、レポートを提出する（50%）。講義の最後には講義全体を振り返ってのレポートを提出する（50%）。それらを基に総合的に評価する。

授業科目名： 子ども思想史特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 杉下文子
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標 ・ 教育学の古典に親しむ。 ・ 西洋近代教育の礎を作ったと言われるルソーの思想と、その後世への影響を理解する。 ・ 現代社会における「子ども」や私たちの持つ子ども観を客観視することで捉え直し、子どもたちを育むべき保育や教育活動のあり方について考察を進めることができる。				
授業の概要 本講義では「子どもの発見者」といわれるJ. J. ルソーの教育論『エミール』をひもとき、ルソーは何を「発見」したのかを読み解く。授業では演習形式で『エミール』の第1、2編を読み、ルソーが描く「子ども」像を受講生自身にとらえてもらう一方で、ルソーの教育論が持つ教育思想史上の意義について講義を行い、西洋思想の中で「子ども(幼児)」が、どのように捉えられ、その成長を引き出すべき教育的関わりとはいかなるものであるべきとされたのか理解することを目標とする。				
授業計画 第1回：ジャン＝ジャック・ルソーと「子どもの発見」 第2回：ルソーの教育論についての基礎知識 『エミールまたは教育について』概観と序章の読解 第3回：『エミール』第1編 読解：ルソーの人間観 第4回：『エミール』第1編 読解：子どもとはどのような存在か 第5回：『エミール』第1編 読解：「自然」 第6回：『エミール』第2編 読解：「幼年時代」とことば 第7回：『エミール』第2編 読解：教師の役割 第8回：『エミール』第2編 読解：子どもに何を教えるかー寓話の活用 第9回：『エミール』第2編 読解：子どもと遊び 第10回：『エミール』第2編 読解：子どもとしての「成熟」とは 第11回：『エミール』第3編 読解：知識との出会い 第12回：『エミール』第3編 読解：学校的な学習と子どもの成長 第13回：ルソーの教育思想・子ども観の持つ現代的意義（発表） 第14回：ルソーの教育思想・子ども観の持つ現代的意義（発表） 第15回：まとめ				

定期試験は実施しない。

テキスト

ルソー著、今野一雄訳『エミール』上巻、岩波文庫(第74版改版以降の版を用意すること)

参考書・参考資料等

ルソー著、今野一雄訳『エミール』中巻、下巻、岩波文庫

ルソー著、桑原武夫・前川貞次郎訳『社会契約論』、岩波文庫

今井康夫編、『教育思想史』有斐閣アルマ、2009年

文部科学省『幼稚園教育要領（H29年告示）解説』『【総則編】小学校学習指導要領（H29年告示）解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）解説』

学生に対する評価

授業内で提出する数回の小レポート(50%)及び発表(50%)を基に評価を行う。

授業科目名： 子ども・子育て支援実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 犬塚典子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
教育基本法第十条に定められている家庭教育、また第十三条に定められている学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力について学ぶ。子どもと家族を、公的、準公的、私的セクターはどのように支援していくのか、国際比較、ジェンダーの視点から理解することを目標とする。			
授業の概要			
前半は、家族の機能について理論的な学習を行い、OECD諸国の動向についてカナダに焦点をあてて検討を行う。後半は、地方公共団体の事例を共同で分析し、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力のありかたについて討議する。			
授業計画			
第1回：家族の機能について考える（1）マードックの核家族の4機能			
第2回：家族の機能について考える（2）ポルトマンの仮説「生理的早産」			
第3回：家族の機能について考える（3）教育・保育の市場化			
第4回：OECD諸国における子ども・子育て支援			
第5回：子ども・子育て支援に関する海外の枠組：カナダの大学テキストを読む			
第6回：子ども・子育て支援と家族・ジェンダーの多様化：海外の絵本を読む			
第7回：カナダの小学校における子どものケア			
第8回：カナダのファミリー・サポート・センター			
第9回：家庭教育、子ども・子育て支援とジェンダーについての討議			
第10回：教育基本法第十三条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）についての討議			
第11回：事例分析（1）事業所内保育施設についての討議			
第12回：事例分析（2）母子生活支援施設についての討議			
第13回：日本の放課後ケア施設の訪問・見学			
第14回：事例分析（3）放課後ケアについての討議			
第15回：子育て支援すごろく、かるたの作成			
定期試験は実施しない。			
テキスト 使用しない。必要に応じて資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
『文部科学白書』『少子化社会対策白書』			

文部科学省『幼稚園教育要領（H29年告示）解説』『【総則編】小学校学習指導要領（H29年告示）解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）解説』

厚生労働省『「保育所保育指針（H29年告示）解説』

学生に対する評価

事例発表、毎回の討議への貢献度を総合して評価する。

授業科目名： 児童家庭福祉特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺令子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
・児童家庭福祉に係る法律、子どもを取り巻く現状と施策について理解する。 ・社会福祉と学校教育との関係、社会福祉学とソーシャルワークの視点を理解する。 ・児童虐待防止のための理論と社会的動向、学校、教育委員会、保育・幼児教育施設等の的確な対応について理解する。 ・地域の児童家庭福祉機関の調査、事例検討、フィールドワークを通して、学校、保育・幼児教育施設等の現場に求められる実践に資する研究の視点を身に付ける。			
授業の概要			
学校、教育委員会、保育・幼児教育施設等において、様々な問題を抱える児童・家庭への関わりや支援に向けて、児童家庭福祉に関する法律・理論・現状・施策について、主体的な学修を中心にして基本的知識を習得する。特に、児童虐待防止への的確な対応についての理解を深め、さらに地域の関係機関の調査研究、事例検討、ロールプレイ、児童家庭福祉に係るフィールドワークを通して、学校、保育・幼児教育施設等の現場に求められる実践に資する研究の視点を身に付けられるようにする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、児童権利条約、憲法、教育基本法における児童家庭福祉			
第2回：児童家庭福祉をとりまく現状・課題と対応			
第3回：社会福祉と学校教育との関係			
第4回：児童虐待防止における学校の役割―早期発見、早期対応、関係機関との連携			
第5回：児童虐待防止における教育委員会の責務―研修の充実、調査研究・検証			
第6回：社会福祉学とソーシャルワークの視点			
第7回：学校内の組織的連携とスクールソーシャルワーカーの役割と活用			
第8回：保育・幼児教育施設内の組織的連携と保育ソーシャルワークの考え方			
第9回：要保護児童対策地域協議会・児童相談所との連携と専門職の役割			
第10回：【課題】地域の児童家庭福祉機関のしくみについて―調査の発表と意見交換			
第11回：事例検討―児童虐待への対応と支援〔学校現場編〕			
第12回：ロールプレイ―児童虐待への対応と支援〔保育・幼児教育施設現場編〕			
第13回：フィールドワーク① 児童相談所・一時保護所等			

第14回： フィールドワーク② 市子育て支援センター等

第15回： 全体を通したディスカッションー実践に貢献する研究の視点をもつ

定期試験は実施しない。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

文部科学省『幼稚園教育要領（平成29年告示）解説』

文部科学省『【総則編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）解説』

厚生労働省『「保育所保育指針（平成29年告示）解説』

こども家庭庁ホームページ「児童虐待に係る法令・指針等一覧」

文部科学省『学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き』（令和2年6月改訂版）

文部科学省『手引き「児童虐待への対応のポイント～見守り・気づき・つなぐために～」について』（令和5年10月改訂版）

こども家庭庁『保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン』（令和5年5月）

神奈川県教育委員会教育局行政部行政課人権教育グループ『児童虐待対応マニュアル（小・中学校教職員向け 保存版）』（令和2年5月）

その他、適宜、参考資料の配付、参考文献の紹介をします。

学生に対する評価

○成績評価の基準

授業への積極的な参加（発表とディスカッション）と事前事後課題、課題レポート及び事例検討・ロールプレイ、フィールドワークの主体的な学修で評価する。

○評定の方法

授業参加・事前事後課題（40％）、課題レポート（20％）、事例検討・ロールプレイ、フィールドワーク（40％）

授業科目名： 家族社会学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小玉亮子
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
社会学の視点から、家族をマクロ及びミクロな視点から分析することによって、自らが無意識のうちにもつ家族観が普遍のものではないことを学び、自らの家族観を相対化を試みる。			
同時に、家族について学校や地域との関係に焦点を当てて、家族が単独のシステムとしてあるのではなく、グローバル化が進む社会にあって、様々なシステムと相互的に存在していることを理解する。			
授業の概要			
家族が歴史的構築物であることが認識されるようになり、それまでの家族を本質から語るような議論ではなく、家族を社会的構築物としてみなす、いわゆる家族社会学のパラダイム転換が起こった。そして、そこから近代以降において子どもに対する家族と学校の影響力は歴史的に未だかつてないほど強力なものとなったことがあきらかにされてきた。しかし、近代以降の家族と学校はいつでも期待される機能を十全に果たし得るとは限らない、家族と学校はそれぞれ課題に直面し、両者の関係は、複雑に問題を抱えることとなった。こういった家族と学校の複雑な関係に焦点を当てて、幼児教育を視野にいれながら家族の問題について社会学的に分析する。			
授業計画			
第1回：家族を論じるために			
第2回：家族問題は何が問題か			
第3回：家族社会学のパラダイム転換（家族形態から）			
第4回：家族社会学のパラダイム転換（家族関係から）			
第5回：近代家族とは何か			
第6回：近代家族と子ども			
第7回：近代家族とジェンダー			
第8回：社会変動の中の家族と教育（日本）			
第9回：社会変動の中の家族と教育（世界）			
第10回：子どもの発達と家族			
第11回：学校と家族の連携			
第12回：地域社会と家族			

第13回：グローバル社会と家族（途上国）

第14回：グローバル社会と家族（先進国）

第15回：家族のゆくえ

定期試験は実施しない。

テキスト

参考資料から随時、指示する

参考書・参考資料等

藤崎宏子・池岡義孝編『現代日本の家族社会学を問う』ミネルヴァ書房

小玉亮子編(2020)『幼児教育』ミネルヴァ書房

文部科学省『幼稚園教育要領（H29年告示）解説』『【総則編】小学校学習指導要領（H29年告示）解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）解説』

学生に対する評価

授業への参加、小レポートと研究発表を元に総合的に評価する

授業科目名： 子ども政策特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡邊英則
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1. 制度が大きく変わるときに問われるのは理念である。国際的な幼児教育・保育の流れを見据えながら、日本の幼児教育・保育はどのような制度になっているのか、それがどのように小学校教育へとつながっていくのか、またその際、何か課題なのか等について、保育、小学校教育の実態も踏まえながら様々な視点から検討ができる力を養う。				
2. 理念を具体的な実践として実現していく方法や考え方を獲得していく。				
授業の概要				
平成27年度から国の子どもや子育てに関する制度が大きく変わった。これまで縦割り行政で分かれていた幼稚園と保育所を、幼保連携型認定こども園という一つの制度としていく動きもこの制度改革の大きな柱になっている。また平成30年度からの学習指導要領改訂の動きは、小中学校の学習指導要領の改訂だけでなく、幼稚園や保育所、認定こども園も含め、日本の教育のあり方を大きく変えようとする改訂になっている。また幼児教育と小学校教育の架け橋プログラムの検討も始まり、幼児教育・保育がこれまで培ってきた子どもを育てる考え方が、小学校の個別最適な学びや協働的な学びなどへとつながっていく動きが大きく取り上げられるようになってきた。このような社会の動きや制度改革を見据えながら、実践する側の立場から、今後、求めるべき小学校教育や、幼児教育・保育のあり方を探求する。				
授業計画				
第1回：「子どもが育つ」とはどんなことかを考える				
第2回：学習指導要領改訂の基本的な考え方を学ぶ 「育みたい資質・能力」とは何か				
第3回：幼稚園教育要領改訂の基本的な考え方				
第4回：保育所保育指針の基本的な考え方 特に乳児保育について				
第5回：認定こども園制度について（1）制度と仕組み				
第6回：認定こども園制度の実践（2）実際の保育を中心に				
第7回：架け橋プログラムから小学校教育を考える（1）幼小の比較から教育のあり方を考える				
第8回：架け橋プログラムから小学校教育を考える（2）具体的な取り組みを中心に				
第9回：保育・教育の質について（1）質とは何かを考える				
第10回：保育・教育の質について（2）マネジメントや研修から保育の質を考える				
第11回：特別支援教育・保育について 共生社会の実現に向けて				

第12回：子どもを人間としてみる保育・教育とは（1）文献、事例研究から

第13回：子どもを人間としてみる保育・教育とは（2）討議を中心に

第14回：探求型の保育・教育を実現させていくために必要なこと 討議を中心に

第15回：実践を深めていくために必要な政策とは

定期試験はしない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

文部科学省『幼稚園教育要領（H29年告示）解説』『【総則編】小学校学習指導要領（H29年告示）解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）解説』

必要に応じて授業内で資料等を紹介する。

学生に対する評価

授業での発表・課題及びレポート等を総合的に判断し評価する。

授業科目名： 教育学特殊研究		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 米山 光儀
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
この授業では、「教育とは何か」という本質的な問題を考え、教育学の諸概念が理解できるようになることを目標とする。教育は「子どもを善くしようとすること」と定義できるが、「善さ」をどのように考えるかによって、教育の目標や方法などは大きく変わってくる。「善さ」をめぐる問題であるので、道徳教育についての見識も備わるようになる。 この授業では、原典を用いて、これまでの代表的な教育思想を理解し、その上で教育の新しいモデルの構築を試みる。				
授業の概要				
子どもを善くしようとする働きかけである教育は、目標である「善さ」をめぐるさまざまな考えられてきた。授業では、教育が辞典・事典などでどのように定義されてきたかを検討し、道徳教育を例にしながら、新しい教育のモデルを構築する。その際に、これまで思想家によって教育がどのように考えられてきたかを原典にあたって知ることが、新しいモデルを構築する一助となることから、さまざまな角度から原典を取り上げ、読んでいく。				
授業計画				
第1回：教育はどのように定義できるか				
第2回：国語辞典の「教育」の項目を検討する。				
第3回：教育学事典の「教育」の項目を検討する。				
第4回：歴史的な教育モデル（手細工モデル・農耕モデル・生産モデル）における「善さ」と子ども				
第5回：新しい教育のモデルの模索				
第6回：「善さ」をめぐる教師と子供の関係（道徳は教えられるか）				
第7回：「善さ」をめぐる国家・保護者・教師・子どもの関係（道徳教育をめぐる諸問題）				
第8回：教育のパラドックス				
第9回：『原典による教育学の歩み』第1章「人間の教育（パイデア）」を読むープラトン				
第10回：『原典による教育学の歩み』第2章「伝統と革新」を読むーオーウェン				
第11回：『原典による教育学の歩み』第3章「子どもの発見」を読むールソー				
第12回：『原典による教育学の歩み』第4章「学校と教育」を読むーコメニウス				
第13回：『原典による教育学の歩み』第5章「教育の科学へ」を読むーヘルバルト				
第14回：『原典による教育学の歩み』第6章「思想と体制」を読むークルプスカヤ				

第15回：教育学研究の現在

定期試験は実施しない。

テキスト

村井実編『原典による教育学の歩み』

参考書・参考資料等

文部科学省『幼稚園教育要領（H29年告示）解説』『【総則編】小学校学習指導要領（H29年告示）解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）解説』

その他、プリントを配布する

学生に対する評価

各回に提出を求める小レポート及び最終レポートで評価する。

授業科目名： 子ども環境学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仙田考
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
学生が、乳幼児期から学童期の子どもがひと・もの・自然・場・社会などさまざまな環境と関わる活動（領域環境から生活科等を踏まえ）や、子どもや子育てのための環境について、座学とともに、関連分野の専門家の話や、子ども環境等保育・教育現場の見学等を通し、子どもと環境との関係や、子どもの発達に寄与する環境のあり方を理解し、子どもや子育てにとってよりよい環境とはなにかを学び考え探求することができる。				
授業の概要				
現在の幼稚園教育における「環境を通しての保育」や領域「環境」の意義と在り方、小学校教育における児童や学校、地域の実態に配慮した適切な教育課程の編成（生活科等含む）、またその実践について学ぶために、子どもと環境との関係、特に子どもと環境との相互関係に着目し、その発達過程と育成に必要な環境のあり方を論ずる。その際、今日の子どもたちを取り巻く環境の激変が、未来を担う子どもたちに与える影響を考察し、その課題を整理した上で、子どもの豊かな発達を支える保育・教育環境や子どもに活力を与える社会環境の構築に必要な要素を検討する。子どもの視点から見た環境の捉え直しを横断的・学際的に検討する。また子ども環境の現場を訪れ、保育・教育の方法や実践について考える機会も持つ。				
子ども環境学とは何かからはじめ、とくに子どもの遊び、学び環境を中心的に取り上げながら、遊び空間の在り方、住まいの問題、安全な環境づくり、幼児教育・学校教育施設、医療環境、児童館・環境学習施設などの地域施設の現状などについて検討を進める。その上で、子どものための、子育てがしやすい街・都市づくりの在り方を展望し、子どもや子育て家庭を支える保育・教育実践のあり方を幅広い視点から考える。				
授業計画				
第1回：子ども環境学とは何か ― 幼稚園教育要領、小学校学習指導要領等を踏まえて				
第2回：子どものあそび環境（１） ― 子ども時代のあそび環境、生活環境				
第3回：子どものあそび環境（２） ― 時間、空間、集団、方法 ～遊環構造、あそび環境におけるリスクとハザード				
第4回：子どもと保育・教育環境との関わり（１） ― 乳幼児期の領域環境から学童期の生活科等へ向けて				
第5回：子どもと保育・教育環境との関わり（２） ― 園舎・校舎、園庭・校庭環境、保育・				

教育と環境の構成

第6回：子どもと自然 ― 身近な自然にふれてみよう、感じてみよう ～乳幼児期の領域環境から学童期の生活科等へ向けて

第7回：子どもと園・学校・地域の環境（1）― 子ども環境に関する現状、課題についての発表

第8回：子どもと園・学校・地域の環境（2）― 子ども環境に関する現状、課題についての発表、討論

第9回：子どもと地域 ― 子育て支援の環境、まち保育・まち学習

第10回：子どもと環境学習 ― 乳幼児期の自然、環境への気づきから学童期の持続発展教育へ

第11回：子どものための環境づくり（1）― 子どもにやさしい園・学校環境づくり・まちづくりの在り方に向けての検討

第12回：子どものための環境づくり（2）― 子どもにやさしい園・学校環境づくり・まちづくりの在り方に向けて提案、発表

第13回：子ども環境施設等の視察（1）― 子ども環境施設等において子どもための施設環境のあり方について学ぶ

第14回：子ども環境施設等の視察（2）― 子ども環境施設等における子どもの環境とのかかわりの可能性について学ぶ

第15回：子ども環境施設等の視察（3）― 子ども環境施設等における大人（保育者・教育者・支援者等）の役割や環境構成のあり方について学ぶ

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

文部科学省（2017）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説

文部科学省（2017）幼稚園教育要領（平成29年告示）

厚生労働省（2017）保育所保育指針（平成29年告示）

内閣府ほか（2017）幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）

文部科学省（2022）小学校施設整備指針、幼稚園施設整備指針

そのほか必要に応じて授業内で資料等を紹介する。

学生に対する評価

授業での発表・課題及び最終レポートを総合的に判断し評価する。

授業科目名： 発達心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 横尾暁子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ・発達心理学の最新の研究成果を学び、子どもの育ちを多面的に理解する。 ・子どもの生涯の発達を見通し支えるために、発達心理学の研究成果を実践の場面でどのように応用できるか考える。			
授業の概要 人間の生涯にわたる発達・成長のなかで、人生初期はその基盤となる重要な時期であると考えられている。本授業では、主に乳幼児期・児童期の子どもの発達を中心テーマとして扱い、国内外における研究成果について学ぶ。			
授業計画 第1回：発達心理学とは何か、発達心理学の歴史 第2回：発達理解の意義、発達心理学の研究法 第3回：研究計画と心理統計 第4回：発達の基盤 - 遺伝と環境 - 第5回：愛着の発達 第6回：認知発達 - 表象の発達と概念の発達 - 第7回：認知発達 - 言語発達と社会的認知の発達 - 第8回：道徳性の発達 第9回：子どもの育ちとレジリエンス 第10回：食行動の発達 第11回：仲間関係の発達 第12回：自己認知の発達 第13回：問題解決行動の発達 第14回：親子関係の発達 - 養育態度と発達 - 第15回：まとめ - 保育者・教員と子どもの関係 - 定期試験は実施しない。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等			

外山紀子・中島伸子『乳幼児は世界をどう理解しているか』 新曜社 2013

小塩真司 他『非認知能力：概念・測定と教育の可能性』 北大路書房 2021

文部科学省『幼稚園教育要領（H29年告示）解説』『【総則編】小学校学習指導要領（H29年告示）解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）解説』

その他、必要に応じて資料等を紹介する。

学生に対する評価

授業内での発表および討議（50%）、最終レポート（50%）に基づいて評価する。

授業科目名： 主権者教育特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 國見 真理子
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
本授業のテーマは、子どものために憲法をはじめとする社会制度の基本を教える力を育成することです。本講義の到達目標としては、教育基本法の趣旨に則り、第一に子どもの政治参加意識を高めさせること、第二に子どもの主権者意識の定着を目指すこと、第三に I C T 社会の中で氾濫する情報の中で子どもの適切な情報判断力を高めさせることです。				
授業の概要				
前半は教育基本法の教育の目的（1条）に基づき憲法を中心とするアプローチ、後半は具体的な法律のアプローチに基づき子どもの生きる力を高めるための主権者教育を展開していきます。これらのアプローチを通じて、主権者の基本的人権保障、主権者の役割や政治参加の意味、選挙制度や憲法改正、社会の中で生じる法律問題などに触れてもらうことで、子どもたちに主権者の意義について考えるきっかけを与えることを目指します。				
授業計画				
第1回：ガイダンス：主権者教育とは何か、教育基本法における主権者教育の意義				
第2回：憲法概説				
第3回：憲法の基本原理：国民主権、平和主義、基本的人権の尊重				
第4回：憲法と民主主義：主権者教育の観点からみた国民主権				
第5回：憲法と選挙：国民の政治参加				
第6回：憲法改正と国民投票				
第7回：国会について：国会議員の役割と立法活動				
第8回：内閣について：内閣総理大臣と行政活動				
第9回：裁判所について：裁判の仕組みと裁判員制度				
第10回：基本的人権について：自由権、社会権、参政権などの人権問題				
第11回：契約について：契約トラブル等の子どもの消費者問題				
第12回：家族について：子どもと家族をめぐる問題				
第13回：労働について：子どもと労働をめぐる問題				
第14回：刑罰について：裁判と適正手続				
第15回：総括				
定期試験は実施しない。				

テキスト：なし

参考書・参考資料等

文部科学省『小・中学校向け主権者教育指導資料「主権者として求められる力」を子供たちに育むために』

新藤宗幸『「主権者教育」を問う』（岩波書店）

学生に対する評価

期末レポート（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）及び毎回の授業への貢献（20%）

授業科目名： 教育分野に関する理論 と支援の展開	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大塚秀実 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ・教育現場をめぐる臨床心理学的課題について理解し説明出来る ・いじめ、ハラスメントに対する心理支援の実践を理解し説明出来る ・学業困難、進路未決定に対する心理支援の実践を理解し説明出来る。 ・不登校、ひきこもりに対する心理支援の実践を理解し説明出来る ・心理支援における教員や保護者、他機関との連携に関する実践を理解し説明出来る			
授業の概要 テーマは教育分野に関わる実践である。学校内での対人関係困難等の学校不適応、不登校傾向、学業困難やいじめ、ハラスメント、ひきこもり等の問題に関わる理論の獲得と、心理支援の展開について、スクールカウンセリングから大学学生相談まで含めて、討論もおこないながら理解する。さらに学校内の相談室、教育センター、各種教育相談機関等において、本人との面接、保護者との面接、教員へのコンサルテーション、必要に応じた他機関との連携支援活動等、教育分野に関する広汎な支援の実践についても討論も用いて理解を深める。			
授業計画 第1回：教育現場における臨床心理学的課題授業オリエンテーション：授業概要、到達目標、授業の進め方 第2回：いじめをめぐる心理支援の実践：実際例に基づき課題や対応策について討論する 第3回：学校ハラスメントをめぐる心理支援の実践 第4回：児童・生徒の学業困難に関する心理支援の実践：実際例に基づき課題や対応策について討論する 第5回：学習支援に関する心理支援の実践 第6回：進路選択に関連した心理支援の実践 第7回：キャリア探索をめぐる心理支援の実践 第8回：不登校生徒に対する心理支援の実践：実際例に基づき課題や対応策について討論する 第9回：不登校生徒に対する心理支援の実践：実際例に基づき課題や対応策について討論する 第10回：ひきこもりに対する心理支援の実践 第11回：スクールカウンセリング、学生相談の役割と実際：学校領域への支援に関する課題について			

て討論する。

第12回：教育センターなど外部教育支援機関における心理支援の役割と実際

第13回：教員や保護者との連携・協働による心理支援の実際

第14回：教育分野における心理支援の課題：教育分野全体への支援の課題について討論する

第15回：全体のまとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

特に使用しない。授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省『幼稚園教育要領（H29年告示）解説』『【総則編】小学校学習指導要領（H29年告示）解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）解説』

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業での発表（50％）・課題及び最終レポート（50％）を総合的に判断して評価する。